

稲作情報 No.3

〔5月22日水稲調査結果、大麦適期収穫〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、生産振興課、JA経済連、主要農作物振興協会）

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/inasaku.html>

- ・5月中旬に田植えされた適期コシヒカリの活着は良好です。
- ・ハナエチゼンも活着は良好ですが、夜温が低い日が多いために生育は遅れ気味です。
- ・浅水管理で分げつを促進していきましょう。ニカメイガが例年多い地域は防除の準備をしましょう。

水稲

【農業試験場のコシヒカリの生育】



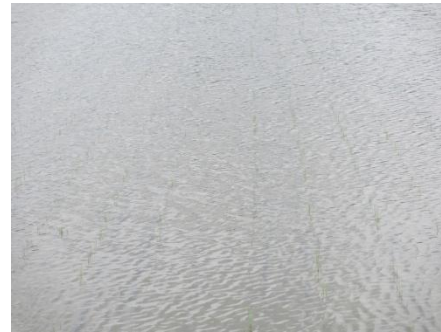
圃場の外観 (植付本数4.0本/株)

適期田植えコシヒカリ(5/20植え)



稲株の拡大

(降雨後なので深水状態となっている)



圃場の外観

直播コシヒカリ(5/7播種)



出芽状況

- ・コシヒカリの田植後の活着は良好で順調な生育です。
- ・5月第2半旬と第4半旬で最低気温が平年より低かったため、ハナエチゼンの生育量は平年より小さいです。
- ・直播栽培も出芽・苗立ちが遅れ気味ですが、苗立数は十分あり良好な苗立ちを迎えています。
- ・予報では今後は平年並みまたはそれ以上の気温で経過する見込みです。浅水管理で分げつを促進していきましょう。
- ・暖冬だったことによりニカメイガの越冬世代成虫のフェロモントラップによる捕獲時期は早まり、捕獲数も平年より非常に多いです。例年被害が多い地域では、適期に防除を行いきましょう。

【今後の栽培管理】

品種	今後の管理
適期田植え コシヒカリ	<p>【活着、分けつ促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水深2～3cmの浅水管理で茎数確保を図る。 深水で苗が徒長した圃場では、日中は努めて浅水で稲体健全化を目指す。
湛水直播(カルパー) コシヒカリ	<p>【苗立数】</p> <ul style="list-style-type: none"> コシヒカリでは50～80本/m²程度、その他の品種では50～100本/m²程度が目安。 苗立数が多い圃場は目標茎数に達する時期が早まり、中干しだけで茎数過剰を防げない。その場合は、農林総合事務所の担当者と相談し「中期深水管理」の実施を検討する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>直播コシヒカリの中期深水管理についてはこちらを参照。 http://info.pref.fukui.jp/nougyou/noushi/data/fukyuu/h23/01.pdf</p> </div> <p>【除草剤散布】</p> <ul style="list-style-type: none"> 直播栽培における除草剤散布時期の目安は播種後10日後と20日後の2回であるが、低温で出芽が遅れ1回目の散布が5日以上遅れている。2回目の散布も稲の生育や雑草の発生を見極めながら散布時期を遅らせる。 除草剤散布後は5日間湛水状態を保つ。その後は自然減水に任せ浅水管理とし、苗の硬化に努める。
移植 ハナエチゼン (その他5月上旬に 移植された品種)	<p>【初期生育促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 浅水管理で分けつを促進する。草丈は短くても茎数増加が進む圃場もあるので、溝切りや中干し開始時期が遅れないように準備しておく。 葉色が淡くても基肥施用量が計画どおり施用されているならば、追肥はしないで浅水管理で土壌中の窒素吸収を促進する。

【病害虫等の発生状況と対策】

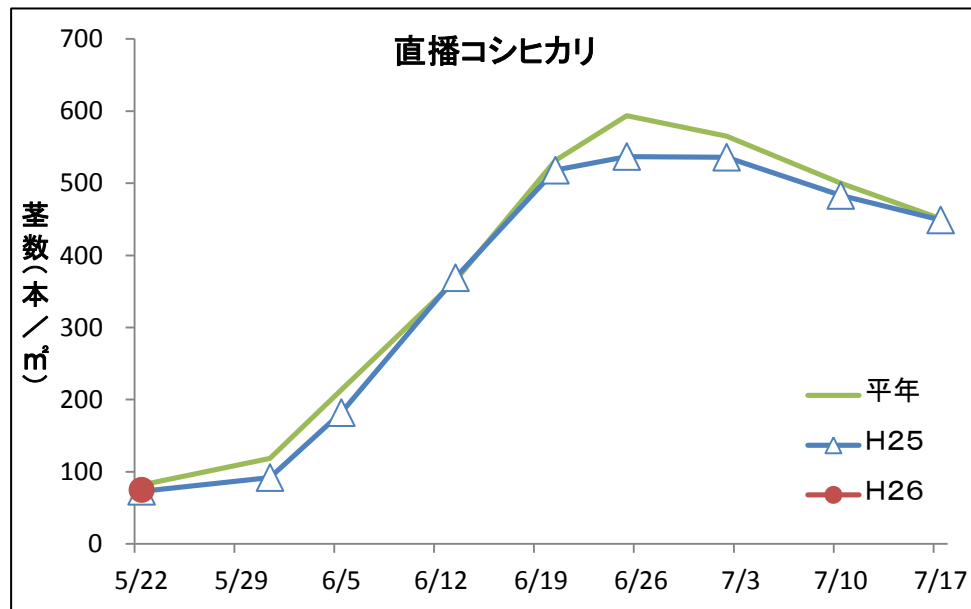
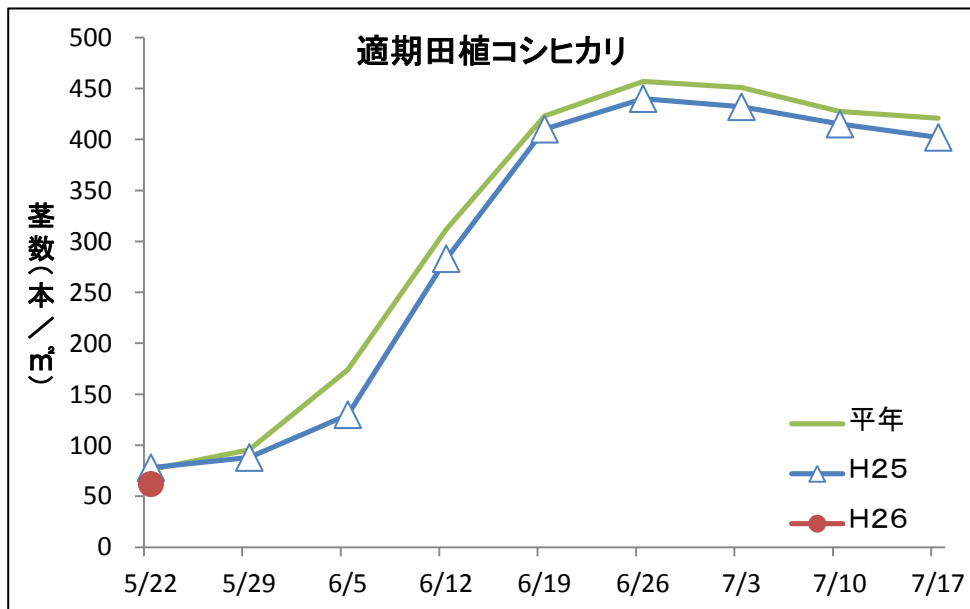
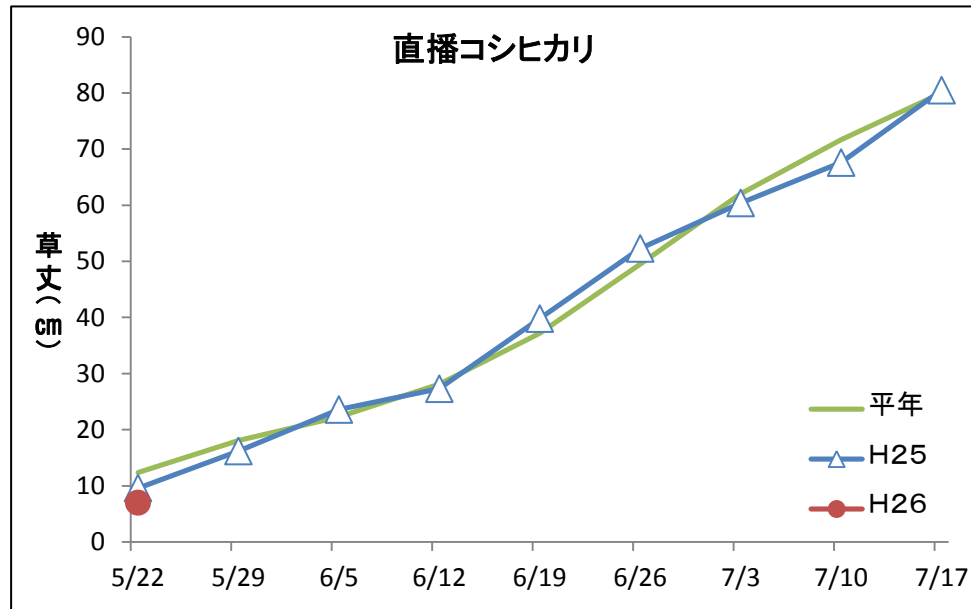
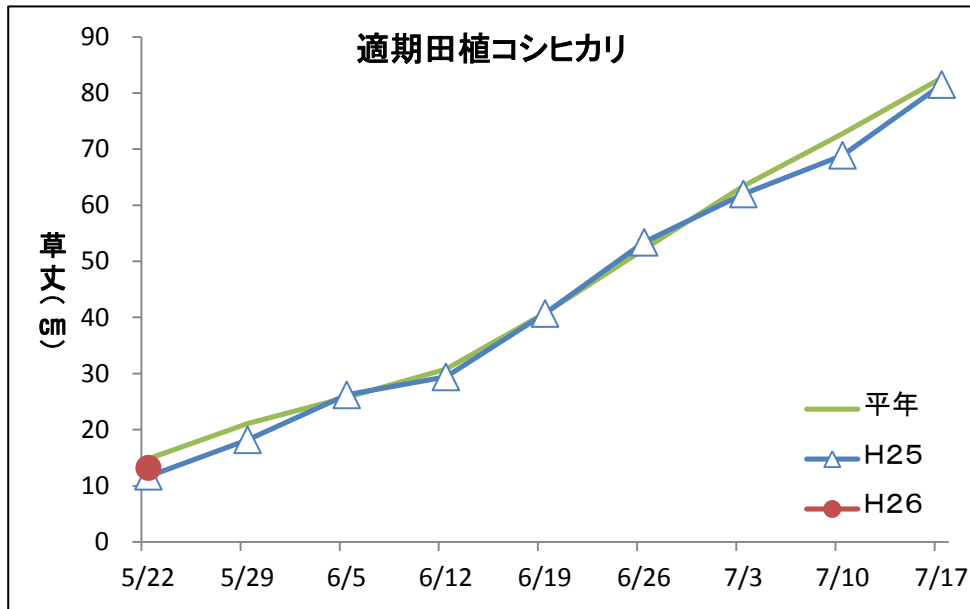
病害虫	発生状況と対策								
イネムズゾウムシ イネドロオイムシ イネヒメハモグリバエ	<p>【移植で箱施薬が行われていない圃場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例年発生が多い圃場ではよく観察し、発生を確認したら速やかに防除する。 ・ 稲体が小さい適期田植えコシヒカリは虫害の影響が大きいので特に注意する。 <p>【直播栽培】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 除草剤散布時や田面が低い所など深水傾向の所はイネヒメハモグリバエの被害が大きくなりやすい。初期害虫対応薬剤の種子粉衣がされていない圃場は注意する。 								
葉いもち	<p>【適期田植え、直播コシヒカリ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲体が弱いので発病に注意する。本田でのいもち予防剤の散布時期は6月上旬。 								
ニカメイチュウ	<p>【発生状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月中旬のフェロモントラップによる誘殺数は、<u>発生時期が平年よりかなり早く、発生量は平年より非常に多い。</u>福井平野北部において<u>毎年発生が多い地域では防除が必要</u>である。 <p>【防除】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1世代幼虫による加害は6月上旬ころから増加する見込み。 ・ 防除適期は、<u>粒剤は6月1日頃、粉剤と液剤は6月5～10日頃。</u> <p>詳しくは、病害虫防除だよりN o . 2 7 9を参照。(URLは表下に記載)</p>								
その他	<p>【除草】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雑草は圃場の高低差、水管理の不備等が要因で多くなる。 ・ 除草剤成分の流出を防止し安定した除草効果を得るため、<u>散布後7日間は落水や掛け流しをしない。</u> ・ 雑草の取りこぼしがある場合は、発生している草種にあわせ、中期除草剤や後期除草剤を使用する。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ヒエ</td> <td>クリンチャー1キロ粒剤（湛水散布）、ヒエクリーン1キロ粒剤（湛水散布）、 ワンスターJ1キロ粒剤（湛水散布）、クリンチャーEW（落水散布）</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">広葉雑草</td> <td>バサグラン液剤（落水散布）</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ヒエ+広葉雑草</td> <td>クリンチャーバスME液剤（落水散布）、ヒエクリーンバサグラン粒剤（ごく浅く湛水して散布）、 ワイドアタックSC（落水散布）</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">クサネム</td> <td>ノミニー液剤（落水散布）</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 除草剤の使用にあたっては、使用基準（使用時期、使用量、成分ごとの使用回数、散布方法、水管理方法等）を必ず守る。 	ヒエ	クリンチャー1キロ粒剤（湛水散布）、ヒエクリーン1キロ粒剤（湛水散布）、 ワンスターJ1キロ粒剤（湛水散布）、クリンチャーEW（落水散布）	広葉雑草	バサグラン液剤（落水散布）	ヒエ+広葉雑草	クリンチャーバスME液剤（落水散布）、ヒエクリーンバサグラン粒剤（ごく浅く湛水して散布）、 ワイドアタックSC（落水散布）	クサネム	ノミニー液剤（落水散布）
ヒエ	クリンチャー1キロ粒剤（湛水散布）、ヒエクリーン1キロ粒剤（湛水散布）、 ワンスターJ1キロ粒剤（湛水散布）、クリンチャーEW（落水散布）								
広葉雑草	バサグラン液剤（落水散布）								
ヒエ+広葉雑草	クリンチャーバスME液剤（落水散布）、ヒエクリーンバサグラン粒剤（ごく浅く湛水して散布）、 ワイドアタックSC（落水散布）								
クサネム	ノミニー液剤（落水散布）								

【生育調査結果】

調査日：平成26年5月22日

		ハナエチゼン			コシヒカリ								あきさかり		
		農試	坂井農場	現地	農試		坂井農場		現地・慣行		現地・特別栽培		農試	坂井農場	現地
		移植 5/2	移植 5/1	移植 5/1	移植 5/20	直播 5/7	移植 5/15	直播 5/8	移植 5/15	直播 5/2	移植	直播 5/5	移植 5/2	移植 5/15	移植 5/11
草丈 (cm)	本年	19.7	21.2	17.1	14.5	12.6	13.4		13.2	7.2		11.4	18.7	12.0	13.4
	平年	21.9	22.2	20.2	15.9	10.2	18.7		14.5	11.2		15.0	22.4	13.9	19.2
茎数 (本/株) (本/m ²)	本年	4.2 87	4.6 84	4.0 72	4.0 83	83	3.3 60		3.5 62	76		80	4.9 102	3.6 66	5.0 76
	平年	7.7 160	7.1 134	5.4 102	3.8 79	126	3.6 68		4.3 78	77		80	7.5 156	2.9 56	4.7 81
葉齢 (枚)	本年	5.0	5.4	4.5	2.6	2.0	3.4		3.0	1.9		1.8	5.0	3.5	3.6
	平年	5.7	5.5	4.9	3.4	2.4	3.8		3.3	2.3		2.8	5.5	3.4	5.1
葉色 (葉色 板)	本年	4.2	4.2	3.7	3.6	3.5	3.2		3.2	3.5		3.0	4.0	3.4	3.4
	平年	4.6	4.7	4.2	3.7	3.6	3.5		3.4	3.5		3.5	4.3	3.6	4.2
幼穂 形成期	本年														
	平年	6/28	6/28		7/13	7/16	7/10	7/16					7/10	7/14	
出穂期	本年														
	平年	7/20	7/17		8/3	8/8	8/2	8/8					8/3	8/8	

【コシヒカリ(慣行・特別栽培)生育経過】



大麦

- 成熟期は昨年より4日程度早く、平年よりやや早まる見込み。
- 収穫作業は5月27日頃から始まり6月1日頃に収穫盛期となる見込み。

作業	作業の注意点
適期収穫	<ul style="list-style-type: none"> • 大麦の<u>収穫適期は穀粒水分25%以下</u>だが、収穫期間の後半の品質低下を防ぐため、<u>穀粒水分が30%以下になった時期から刈り始める</u>。団地ごとの出穂の早晩を把握して<u>刈取り順序を予め決めておく</u>。 • 刈取り時期の判定は、刈取り開始予想日の10日前頃から水分調査を行って成熟の進みを確認する。一般的な穀粒水分計はおおむね30%以下でないと水分測定できないので、穀粒を105℃・24時間で通風乾燥し、乾燥前後の重量変化から水分を測定する。 • 穀粒水分は50～40%くらいまでは1.2～1.6%/日、40%以下から刈取り開始期までは2.1～3.2%/日の割合で低下する傾向にあり、水分測定を実施すれば、次式によって刈取り開始日の予測がある程度可能となる。 $D = (W - 40) / 1.4 + 4$ D：調査日から刈取り開始日(水分30%以下)までの予測日数 W：調査日の穀粒水分、55～40%までは予測可能 • 降雨による成熟期の遅れは少ない。降雨によって穀粒水分が一時的に高まっても天候回復後に水分が大きく低下する。 • 刈取り前に赤かび病等の発生状況やカラスノエンドウの有無等をチェックし、このような圃場が確認された場合は別仕分けする。 • <u>収穫後遅くとも4時間以内には通風もしくは加温通風を開始する</u>。穀粒水分が高いほど変質しやすいので、刈取り開始頃のように穀粒の水分が高い時には、さらに処理の開始を早める。 • <u>麦刈取時にコンバインのカッターの刃幅を最短にセットして、大豆等の播種時に麦稈を鋤き込みやすくする</u>。焼却はしない。

【天気予報】

5月23日7時発表

気象庁 気象統計情報(各種観測データ)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

日付	23 金	24 土	25 日	26 月	27 火	28 水	29 木
福井県	曇のち晴 	晴 	晴時々曇 	曇 	曇一時雨 	曇 	曇
降水確率(%)	~/30/10/0	0/0/0/0	20	40	50	30	30
信頼度	/	/	A	C	C	A	B
福井	最高(°C)	21	27 (26~31)	29 (21~29)	25 (22~29)	26 (25~30)	28 (24~31)
	最低(°C)	/	11	16 (14~17)	16 (15~18)	17 (16~19)	16 (15~18)

【メールマガジン e農メール】

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html



携帯電話ではQRコードで簡単アクセス